

法テラス利用者調査からみる裁判費用立替制度利用の躊躇背景

橋場 典子

(関西学院大学)

1. はじめに

- ・法テラス利用者を直接的に対象とする調査研究は現時点では限定的
- ・本稿は日本司法支援センター編(2010)「法律扶助のニーズ及び法テラス利用状況に関する調査報告書」(以下、「法テラスニーズ調査報告書2010」とする)のうち、特に「法テラス利用者調査」に焦点を当て分析したものである¹

2. 法テラス利用者調査(2010)における法テラス利用者の全体像

(1) 性別分布

- ・法テラス利用者のうち男性は 38.6%(n=475)、女性は 52.3%(n=643)であり法テラス利用者調査2010では女性のほうが法テラスを利用する割合が高い傾向(13.7ポイント)(表1)²

【表1】 法テラス利用者調査における回答者の男女割合

	度数	%
男性	475	38.6
女性	643	52.3
無回答	111	9
合計	1229	100

(2) 年齢層分布³

- ・法テラス利用者調査における年齢層分布を見ると、最も多いのは中堅層で 47.8%(表2)
- ・一般対象調査の回答者における年齢層分布(表3)と比較すると、法テラス利用者は若年層と中堅層の利用割合が高くなっている

【表2】 法テラス利用者調査の年齢層分布

	度数	%
若年層	142	12.7
中堅層	534	47.8
壮年層	292	26.1
高齢層	150	13.4
合計	1118	100

【表3】 一般対象調査の年齢層分布

	度数	%
若年層	149	9.1
中堅層	515	31.5
壮年層	522	31.9
高齢層	450	27.5
合計	1636	100

¹ 法テラスニーズ調査報告書2010は「一般対象調査」「路上生活者調査」「法テラス利用者調査」の3つからなる調査報告書。そのうち「法テラス利用者調査」の総回答者数は1,229名。調査は自記式で2008年秋に実施された。法テラスでの相談内容、来所までの経緯、裁判費用立替制度の周知度や利用意欲等を尋ねている。本稿は、法テラスニーズ調査報告書2010を参考にしつつ、個別に東大社研SSJデータアーカイブに利用申請を行い、入手したデータをもとに分析した結果を掲載している。

² 一般対象調査の回答者における男女割合は男性48.1%(n=787)、女性51.9%(n=849)。

³ 年齢層の区分は、法テラスニーズ調査報告書2010の区分に従い、若年層(29歳以下)、中堅層(30~49歳)、壮年層(50~64歳)、高齢層(65歳以上)に分けている。

(3) 教育歴分布

- ・教育歴を「大卒未満」「大卒以上」の2値に変換し直し分析したところ、法テラス利用者の教育歴は、「大卒未満」が84.5%(n=916)、「大卒以上」が15.5%(n=168)⁴
- ・同様に、一般対象調査における回答者の教育歴を調べたところ、「大卒未満」が80.9%(n=1316)、「大卒以上」が19.1%(n=310)⁵
- ・法テラス利用者は一般対象調査回答者に比べ「大卒未満」の割合が少し高い傾向(3.6ポイント)

(4) 年収分布

- ・法テラス利用者調査の年収(個人年収)は、100万円未満が32.5%、100万円以上200万円未満が23.9%、200万円以上300万円未満が13.8%、300万円以上400万円未満が6.5%(表4)

→300万円未満が全体の7割(70.2%)を超えている(一般対象調査では全体の約6割)⁶

【表4】法テラス利用者の個人年収分布

	度数	%
100万円未満	399	32.5
100万円以上200万円未満	294	23.9
200万円以上300万円未満	169	13.8
300万円以上400万円未満	80	6.5
400万円以上500万円未満	37	3
500万円以上1000万円未満	20	1.6
1000万円以上1500万円未満	2	0.2
わからない	53	4.3
無回答	175	14.2
合計	1229	100

(5) 配偶者・パートナーの有無

- ・法テラス利用者の配偶者・パートナーの有無は、「配偶者・パートナーあり」が42.6%(n=524)、「配偶者・パートナーなし」が44.4%(n=546)、無回答12.9%(n=159)
- ・一般対象調査の同項目は、「配偶者・パートナーあり」が73.0%(n=1194)、「配偶者・パートナーなし」が26.8%(n=439)、「無回答」0.2%(n=3)
- 法テラス利用者は一般対象調査回答者に比べ「配偶者・パートナーなし」の割合が高い(17.6ポイント)⁷

⁴ 「その他」回答とシステム欠損値は除外した n=1084 における割合。

⁵ 「その他」回答とシステム欠損値を除いた n=1626 における割合。

⁶ 一般対象調査の年収(個人年収)の場合、100万円未満が29.5%、100万円以上200万円未満17.8%、200万円以上300万円未満14.2%、300万円以上400万円未満10.3%、400万円以上500万円未満5.5%、500万円以上1000万円未満11.5%、1000万円以上1500万円未満1.2%となっており、300万円未満は全体の61.5%である。

⁷ 法テラス利用者調査は無回答割合が高いため注意が必要。

(6) 小括 ―法テラス利用者調査2010における法テラス利用者の全体像―

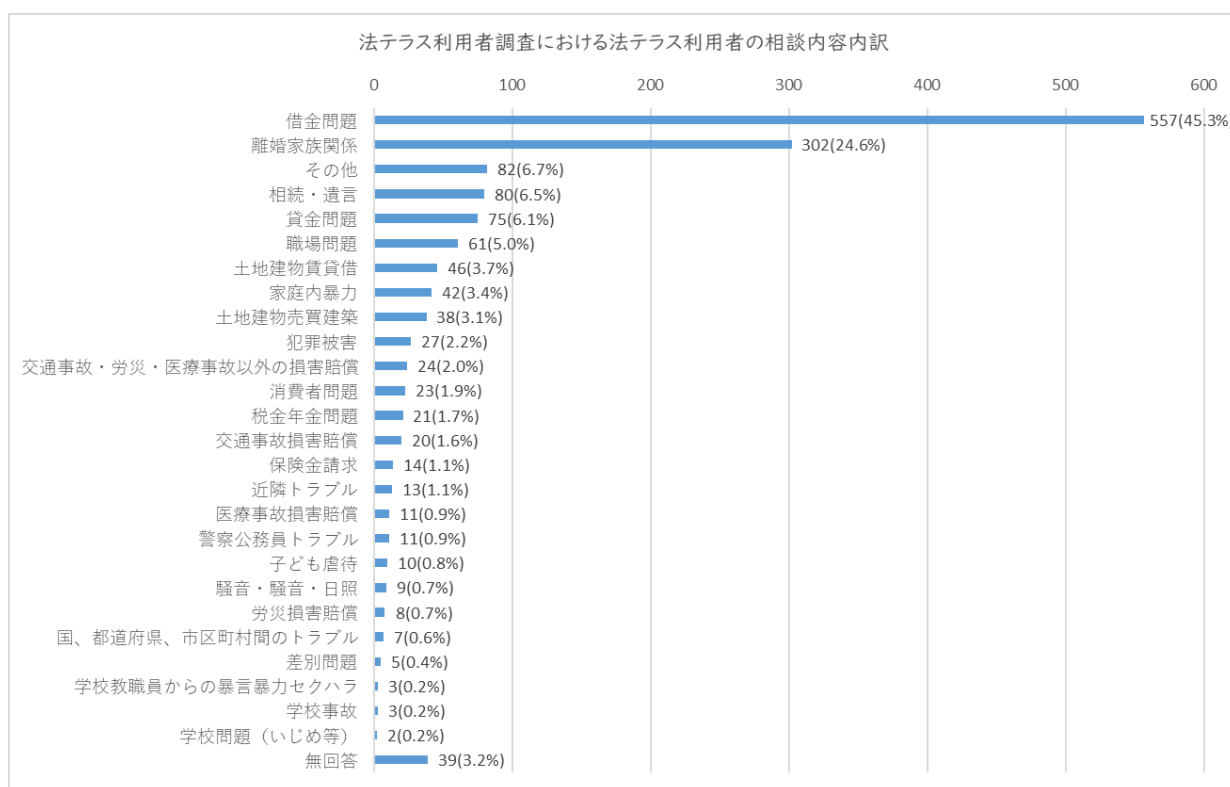
一般対象調査と比較した際の法テラス利用者調査における法テラス利用者の属性としては、男性よりも女性のほうが法テラスを利用する割合が相対的に高い点、大卒未満の割合が比較的高い点、個人年収300万円未満の利用が7割を占めている点、配偶者・パートナーなしの割合が高い点、が特徴的な傾向として示された。

3. 法テラス利用者の相談内容と当事者属性(性別、年齢層)との関連

〔質問〕「今回はどのような問題で法テラスを訪れましたか」

(1) 全体傾向(Q1)

【図1】 法テラス利用者の相談内容内訳(法テラス利用者調査2010)(複数回答可)



- ・回答割合が高い順に「借金問題」(45.3%)、「離婚・家族関係」(24.6%)
- ・法テラス利用者の 7割近く(69.9%) が「借金問題」と「離婚・家族関係」に集中
- ・一般対象調査における扶助要件該当者の相談内容にはばらつきがみられる一方、法テラス利用者調査では上記の通り7割近くが借金問題と離婚・家族関係のトラブルに集中しており、相談内容の偏りが特徴的である

(2) 性別

【表5】 法テラス利用者の相談内容(男女別)

	男性	女性
離婚・家族関係	11.2%	37.9%
家庭内暴力	0.9%	5.5%
職場問題	8.6%	2.9%
借金	56.1%	39.2%

・性別により相談内容に違いがみられたのは、「離婚・家族関係」、「家庭内暴力」、「職場問題」、「借金」

・女性では「離婚・家族関係」、「家庭内暴力」で相談する傾向が高い一方、「職場問題」、「借金」では男性のほうが相談している割合が高い(表5)

(3) 年齢層別

・単純集計を見たところ、いずれの年齢層でも「借金」の割合が高い

・特に壮年層と高齢層は他の年齢層に比べて「借金」で法テラスを利用する割合が高い

(若年層 41.5%、中堅層 39.1%、壮年層 54.5%、高齢層 53.3%)

・「離婚・家族関係」は若年層、中堅層に多く、年齢層が上がるにつれて選択しない傾向

(若年層 38.0%、中堅層 34.8%、壮年層 12.3%、高齢層 10.0%)

・さらに詳しく年齢層と相談内容との関連をみるために、クロス集計をしたところ、有意差が出たのは、「離婚・家族関係」(表6)、「相続・遺言」、「借金」(表7)⁸

【表6】 年齢層×「離婚・家族関係」

【表7】 年齢層×「借金」

年齢層×離婚・家族関係					年齢層×借金				
		非選択	選択	合計		非選択	選択	合計	
若年層	度数	88	54	142	若年層	度数	83	59	142
	%	62.0%	38.0%	100.0%		%	58.5%	41.5%	100.0%
中堅層	度数	348	186	534	中堅層	度数	325	209	534
	%	65.2%	34.8%	100.0%		%	60.9%	39.1%	100.0%
壮年層	度数	256	36	292	壮年層	度数	133	159	292
	%	87.7%	12.3%	100.0%		%	45.5%	54.5%	100.0%
高齢層	度数	135	15	150	高齢層	度数	70	80	150
	%	90.0%	10.0%	100.0%		%	46.7%	53.3%	100.0%
合計	度数	827	291	1118	合計	度数	611	507	1118
	%	74.0%	26.0%	100.0%		%	54.7%	45.3%	100.0%

χ^2 検定、 $p<.001$

χ^2 検定、 $p<.001$

⁸ 調整済み残差 1.96 以上の箇所をグレー表示している。

(4) 小括 一法テラス利用者の相談内容と当事者属性一

- ・法テラス利用者の相談内容の約7割が借金と離婚・家族関係のトラブル類型に集中している
（「一般対象調査」では見られなかった「法テラス利用者調査」独特の傾向）
- ・相談内容を男女別にみると、女性では「離婚・家族関係」「家庭内暴力」で法テラスを利用する傾向が比較的強く、男性では「職場問題」「借金」で法テラスを利用している傾向
- ・どの年齢層においても「借金」で法テラスを利用する傾向はみられるものの、その傾向は壮年層、高齢層においてより強くみられた
- ・「離婚・家族関係」に関しては若年層と中堅層に比較的多くみられ、年齢層があがるにつれて選択しない傾向が示された

4. 法テラス利用の躊躇有無とその理由

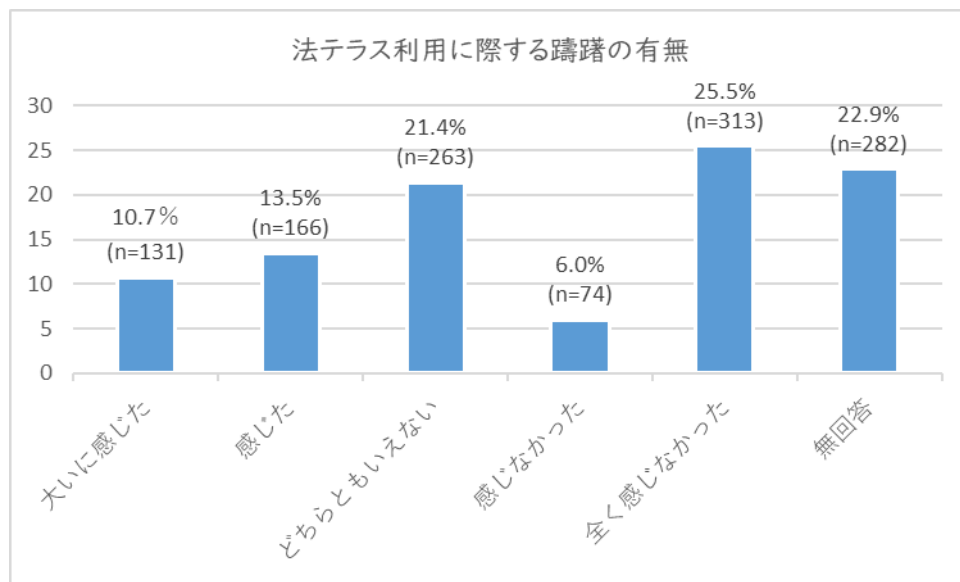
法テラス利用者に法テラス来所前の抵抗や躊躇の有無を聞き、躊躇ありと回答した者にその理由を尋ねたもの。

(1) 躊躇有無 (Q4(2))

[質問]「今回法テラスの法律相談に来るまえに、何か抵抗やためらいを感じましたか」

①全体傾向

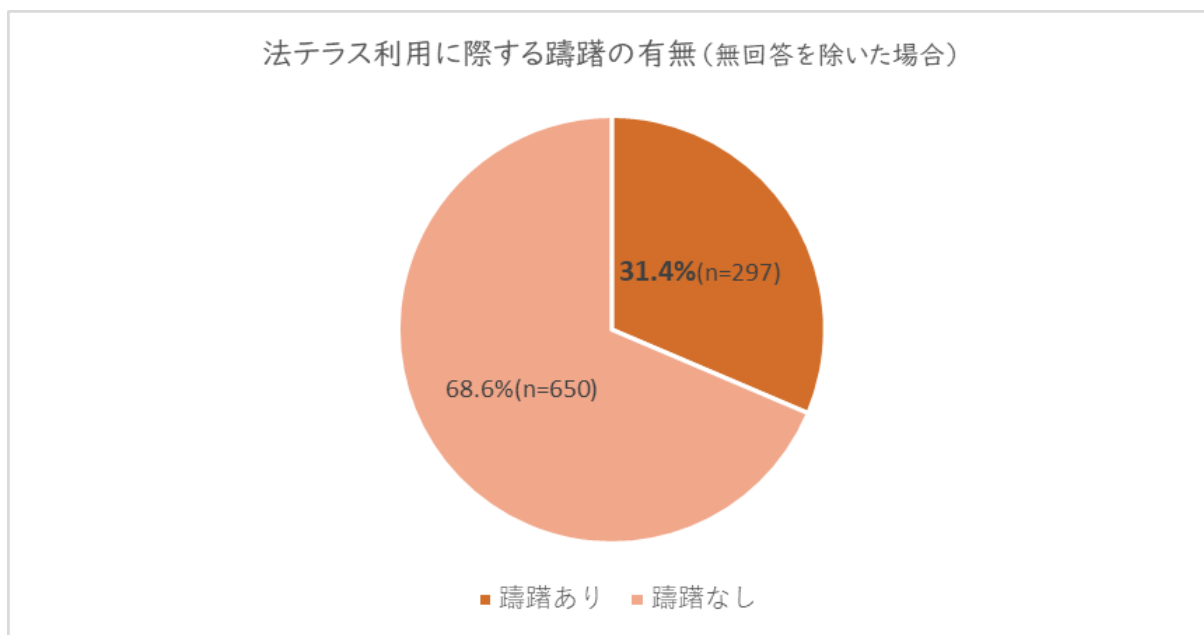
【図2】 法テラス利用に際する躊躇有無（無回答を含める場合）（複数回答可）



・法テラス利用までの躊躇の有無を尋ねたところ、法テラス利用に際して躊躇を感じると回答した者（「大いに感じた」10.7% (n=131)、「感じた」13.5% (n=166)）は回答者全体の 2 割を超えている (24.2%)

・なお、図2の無回答 282 名を除くと、躊躇を感じたと答えた割合は 31.4%となる (図3)

【図3】 法テラス利用に際する躊躇有無（無回答を除いた場合）



②性別

・性別と法テラス利用の躊躇有無をクロス集計したところ、女性のほうが男性よりも躊躇を感じている傾向が示された

・とりわけ躊躇有無を5値で尋ねたクロス表では、男性「まったく感じなかった」と女性「大いに感じた」とで有意差がでた（表8）⁹

【表8】 性別×法テラス利用前躊躇の有無

		性別×法テラス利用前躊躇						
		大いに 感じた	感じた	どちらと もいえな い	感じな かった	全く感じ なかった	無回答	合計
男性	度数	44	71	101	23	138	98	475
	%	9.3%	14.9%	21.3%	4.8%	29.1%	20.6%	100.0%
女性	度数	82	90	145	48	170	108	643
	%	12.8%	14.0%	22.6%	7.5%	26.4%	16.8%	100.0%
無回答	度数	5	5	17	3	5	76	111
	%	4.5%	4.5%	15.3%	2.7%	4.5%	68.5%	100.0%
合計	度数	131	166	263	74	313	282	1229
	%	10.7%	13.5%	21.4%	6.0%	25.5%	22.9%	100.0%

χ^2 検定、 $p < .001$

⁹ 調整済み残差 1.96 以上の箇所をグレー表示している

③年齢層×性別×法テラス利用に際する躊躇有無

【表9】年齢層・性別と法テラス利用に際する躊躇有無との関連

若年層	男性	度数	17	33	50
		%	34.0%	66.0%	100.0%
	女性	度数	23	53	76
		%	30.3%	69.7%	100.0%
	合計	度数	40	86	126
		%	31.7%	68.3%	100.0%
中堅層	男性	度数	44	108	152
		%	28.9%	71.1%	100.0%
	女性	度数	94	203	297
		%	31.6%	68.4%	100.0%
	合計	度数	138	311	449
		%	30.7%	69.3%	100.0%
壮年層	男性	度数	35	79	114
		%	30.7%	69.3%	100.0%
	女性	度数	32	74	106
		%	30.2%	69.8%	100.0%
	合計	度数	67	153	220
		%	30.5%	69.5%	100.0%
高齢層	男性	度数	18	41	59
		%	30.5%	69.5%	100.0%
	女性	度数	22	30	52
		%	42.3%	57.7%	100.0%
	合計	度数	40	71	111
		%	36.0%	64.0%	100.0%
合計	男性	度数	114	261	375
		%	30.4%	69.6%	100.0%
	女性	度数	171	360	531
		%	32.2%	67.8%	100.0%
	合計	度数	285	621	906
		%	31.5%	68.5%	100.0%

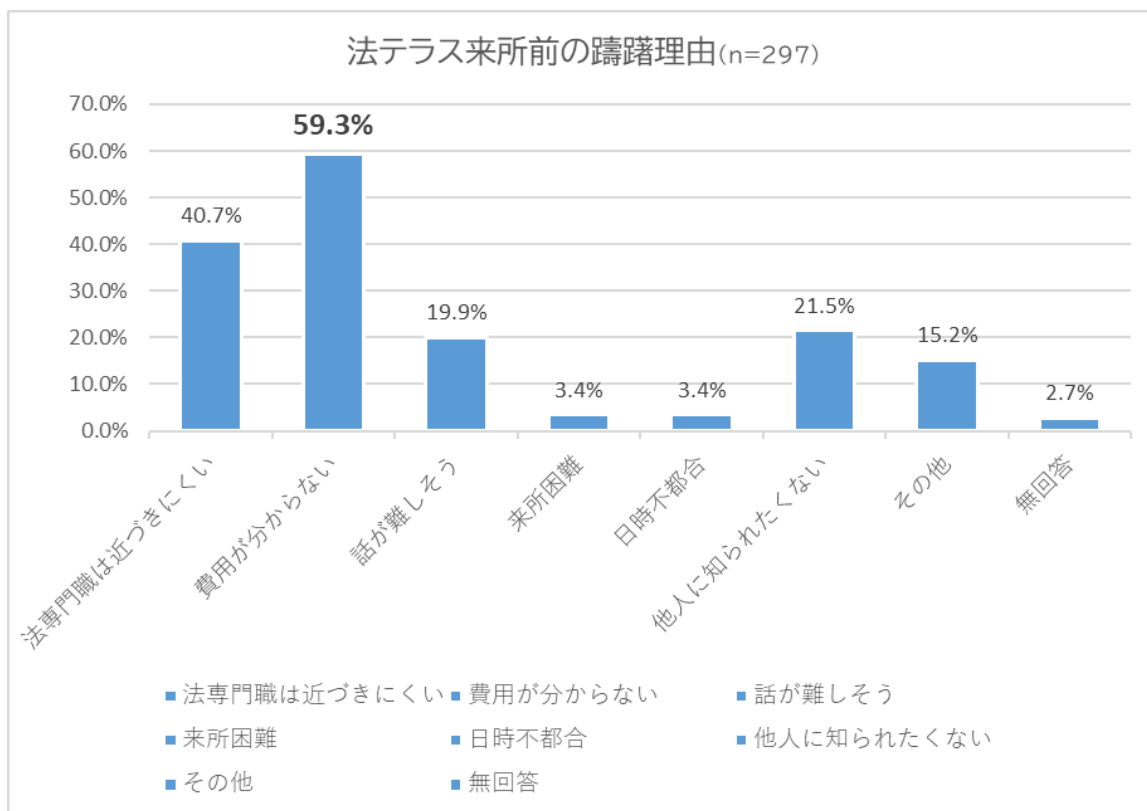
・年齢層と性別との関連でみると、若年層男性(34.0%)と高齢層女性(42.3%)の躊躇傾向が比較的強くみられた(表9)

(2) 躊躇理由 (Q4 (2) ①)

[質問] 「「ためらいを感じた」と答えた方は、その主な理由は何ですか」

①全体傾向

【図4】 法テラス利用の躊躇理由(複数回答可)



・法テラス来所前の躊躇の理由として最も多いのは「費用がいくらかかるか分からなかったから」であり、法テラスを訪れる際の躊躇理由の約6割(59.3%)を占めている(図4)

②性別

【表10】 性別×法テラス利用の躊躇理由

法テラス利用の躊躇理由	男性 (n=115)	女性 (n=172)
弁護士・司法書士は近づきにくい	40.0%	43.6%
費用がいくらかかるか分からない	62.6%	57.6%
話が難しそう	19.1%	20.9%
法律相談の場所まで来るのが大変	1.7%	4.7%
法律相談の日時不都合	3.5%	2.9%
他人に知られたくない	27.0%	18.6%
その他	13.0%	15.7%

・男女ともに「費用がいくらかかるか分からない」が最も多く6割前後を示している(表10)

③年齢層

【表11】年齢層×「費用がいくらかかるか分からない」

		非選択	選択	合計
若年層	度数	12	28	40
	%	30.0%	70.0%	100.0%
中堅層	度数	55	83	138
	%	39.9%	60.1%	100.0%
壮年層	度数	32	36	68
	%	47.1%	52.9%	100.0%
高齢層	度数	17	23	40
	%	42.5%	57.5%	100.0%
合計	度数	116	170	286
	%	40.6%	59.4%	100.0%

・法テラス躊躇理由と年齢層との関連を見てみたところ、「費用がいくらかかるか分からない」に関してはすべての年齢層で5割を超えている(表11)

・特に若年層では70.0%、中堅層では60.1%が費用面への不安から法テラス利用を躊躇したと答えており、比較的若い年齢層においてその傾向が強く出ている

(3) 小括 一法テラス利用の躊躇有無と躊躇理由一

以上、法テラス利用の躊躇有無と躊躇理由の分析からは、法テラス利用者のうち2割を超える者が法テラス来所前に躊躇を感じており(無回答を除くと3割を超える)、その傾向は男性よりも女性に強くみられることが分かった。

躊躇理由として最も多いのは「費用がいくらかかるか分からなかったから」であり、約6割を占めている。とりわけ若年層と中堅層という比較的若い年齢層において費用面への不安が法テラス利用の躊躇理由として挙げられている。

法テラスを実際に利用した者の6割近くが費用面への不安を躊躇理由として挙げている点からは、法テラス利用に至らなかった人々にとって費用面への不安がより強く存在している可能性が示唆されている。

5. 裁判費用立替制度の利用意欲と消極理由

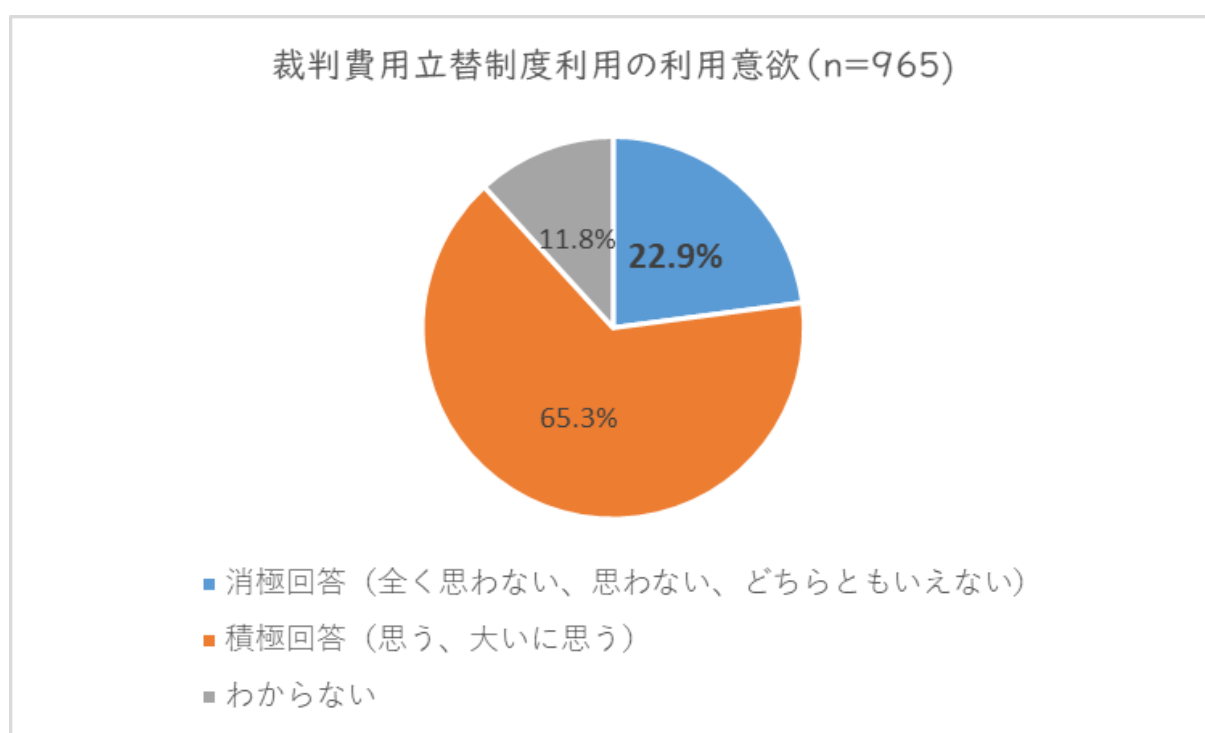
(1) 利用意欲の有無(Q7(2))

[質問]「あなたは、今後、裁判の必要性などが生じた場合、弁護士や司法書士に支払う費用の貸し付けの制度を使ってみようと思いますか」

①全体傾向

法テラス利用者に裁判費用立替制度利用意欲を聞いたもの¹⁰。

【図5】 法テラス利用者調査 2010 における裁判費用立替制度の利用意欲



・裁判費用立替制度を積極的に利用したいと答えたものは 65.3%

・裁判費用立替制度の利用に消極的な姿勢を示すものは 22.9%

¹⁰ 回答者全体 (n=1229) から無回答 (n=264) を除いた n=965 の内訳。

②年齢層×性別×利用意欲

【表12】年齢層×性別×裁判費用立替制度利用の利用意欲

			消極回答	積極回答	合計
若年層	男性	度数	12	29	41
		%	29.3%	70.7%	100.0%
	女性	度数	20	49	69
		%	29.0%	71.0%	100.0%
	合計	度数	32	78	110
		%	29.1%	70.9%	100.0%
中堅層	男性	度数	37	109	146
		%	25.3%	74.7%	100.0%
	女性	度数	72	189	261
		%	27.6%	72.4%	100.0%
	合計	度数	109	298	407
		%	26.8%	73.2%	100.0%
壮年層	男性	度数	22	85	107
		%	20.6%	79.4%	100.0%
	女性	度数	26	77	103
		%	25.2%	74.8%	100.0%
	合計	度数	48	162	210
		%	22.9%	77.1%	100.0%
高齢層	男性	度数	10	39	49
		%	20.4%	79.6%	100.0%
	女性	度数	13	30	43
		%	30.2%	69.8%	100.0%
	合計	度数	23	69	92
		%	25.0%	75.0%	100.0%
合計	男性	度数	81	262	343
		%	23.6%	76.4%	100.0%
	女性	度数	131	345	476
		%	27.5%	72.5%	100.0%
	合計	度数	212	607	819
		%	25.9%	74.1%	100.0%

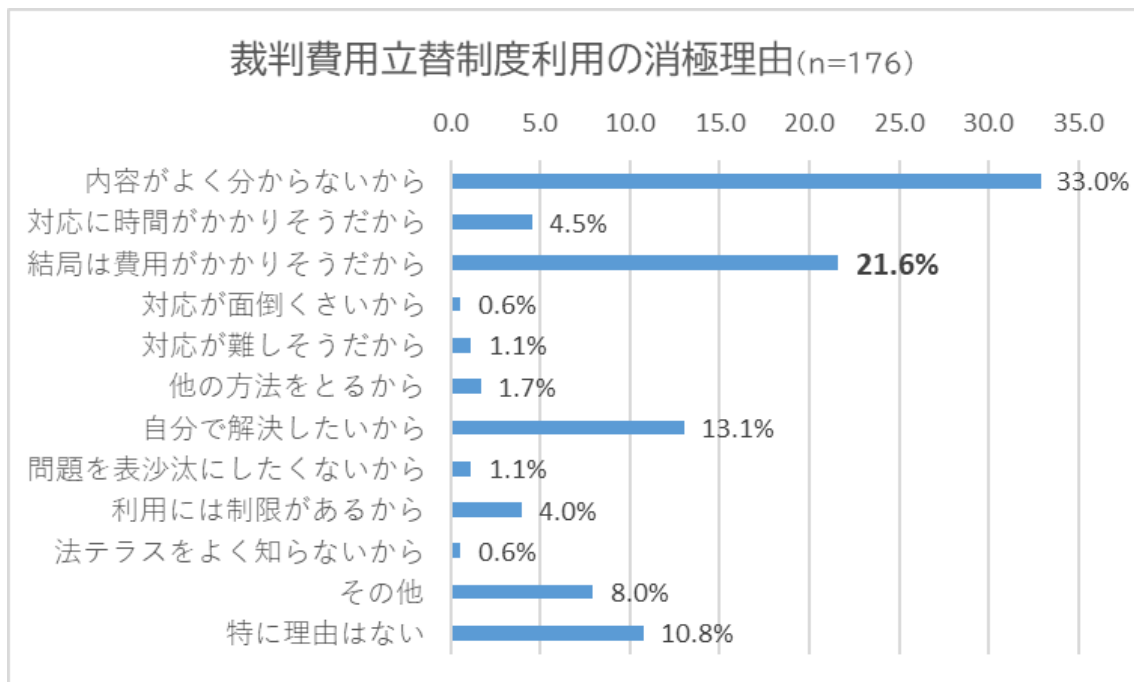
- ・年齢層別に利用意欲をみたところ、消極回答が最も高いのは若年層で29.1%（表12）
- ・比較的年齢層が若い層（若年層と中堅層）において裁判費用立替制度利用の利用意欲が低い（消極回答が多い）傾向がみられた
- ・高齢層女性の消極回答は3割を超えている（30.2%）

(2) 裁判費用立替制度利用を利用しようと思わない理由(制度利用の消極理由)(Q7(3))
 [質問]「貸し付けの制度を使ってみようと思わない、あるいはどちらともいえないと思う理由は何ですか」

①全体傾向

裁判費用立替制度に消極的な姿勢を示す者に、その理由(第一順位～第三順位)を尋ねたもの。

【図6】 裁判費用立替制度利用の消極理由(第一順位)



・裁判費用立替制度利用に消極的である理由(第一順位)を尋ねた項目では、回答割合が高い順に「内容が分からないから」(33.0%)、「結局は費用がかかりそうだから」(21.6%) (図6)

(3) 小括 —裁判費用立替制度の利用意欲と利用に際しての消極理由—

- ・裁判費用立替制度の利用意欲を尋ねたところ、利用に対して消極的な回答をしたものは22.9%
- ・年齢層別では若年層全体の約3割が裁判費用立替制度の利用に消極的
- ・高齢女性の約3割も裁判費用立替制度の利用に消極的
- ・裁判費用立替制度利用の消極理由としては、「内容がよく分からない」が最も多く33.0%、次いで「結局は費用がかかりそうだから」が21.6%
- 裁判費用立替制度自体の内容の周知度(「内容がよく分からない」)に加え、費用面への不安(「結局は費用がかかる」)が結果として法テラス利用者にとって裁判費用立替制度利用の阻害要因となっている可能性
- 若年層や高齢女性にその傾向が比較的多くみられる

6. まとめ —法テラス利用者の特徴と償還制との関連—

(法テラス利用者の特徴)

- ・法テラス利用者は一般対象調査回答者とは異なる特徴(トラブル類型の偏り、属性特徴)がある

(法テラス利用に際する躊躇有無と躊躇理由)

- ・法テラス利用に際する躊躇は法テラス利用者の約2割が感じている
- ・その理由として「費用がいくらかかるか分からない」を挙げる者が約6割を占めている
- ・法テラス躊躇理由と年齢層との関連では、「費用がいくらかかるか分からない」に関してはすべての年齢層で5割を超えている
- ・特に若年層では70.0%、中堅層では60.1%が費用面への不安から法テラス利用を躊躇したと答えており、比較的若い年齢層においてその傾向が強く出ている

(裁判費用立替制度の利用意欲有無と利用に対する消極理由)

- ・裁判費用立替制度の利用に消極的な姿勢を示すものは22.9%
- ・裁判費用立替制度利用の消極理由としては、「内容がよく分からない」が最も多く33.0%、次いで「結局は費用がかかりそうだから」が21.6%

→費用面に関する懸念が法テラス利用者にとっても潜在的な法テラス利用者にとっても大きなバリアとして存在している可能性

→法テラス利用者が複合的困難を抱えやすい傾向にあることも考慮すると、裁判費用立替制度の内容自体の周知と並行して、償還制の見直しも含めた費用面への不安感を緩和するような方策の検討が必要